

vol. **11**

GOVERNOR'S

Monthly Letter

Rotary International District 2600

2013-2014 月信 2014.5.1

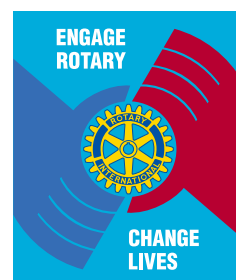


岡谷市近代化産業遺産「鶴峯公園」

国際ロータリー第 2600 地区

- R I 会長 / ロン D. パートン (ノーマン RC)
- R I 理事 / 松宮 剛 (茅ヶ崎湘南 RC)、北 清治 (浦和東 RC)
- ガバナー / 宮坂有洪 (岡谷 RC)

〒394-0027 長野県岡谷市中央町 1-4-12
TEL : 0266-78-8092 FAX : 0266-78-8093
E-mail : miyasaka-g@bz04.plala.or.jp
URL : <http://www.rid2600jp.com>



ロータリーを実践し
みんなに豊かな人生を

IM(アイ・エム)について



国際ロータリー第2600地区 2013-2014年度

ガバナー

みやさか ゆうこう
宮坂 宥洪

ロータリーは毎月、国際ロータリーの目標に沿った「月間」が定められています。先月は「雑誌月間」でしたし、来月は「ロータリー親睦活動月間」です。

本欄では、その都度、月間のテーマにちなんだ話を綴ってきたのですが、5月に関しては何の決まりもありません。

そこでこの機会に、IM(アイ・エム)について語っておきたいと思います。

この号が発行される時点で、第2600地区内9グループのIMはすべて終了しています。

当地区においては、各々のグループでガバナー補佐が中心となり、ホストクラブの実行委員長をはじめとする委員の皆様が真摯に取り組んで下さり、立派なプログラムを組み、時宜を得たテーマを選び、素晴らしい講師を招聘し、見事にIMを完遂して下さいました。

今現在、日本全国において、IMはガバナー補佐が招集し、その出身母体のクラブで実行委員会が構成される慣わしとなっています。

ところが、このように地区の重要な行事として定着しているIMは、地区大会や他の諸会合とは異なり、実は国際ロータリー(RI)公認のプログラムではないのです。『ロータリー章典』にも『手続要覧』にも何ら規定がありません。(それでいて、「都市連合会」への参加を促す記述は随所に見られます。)

古い『手続要覧』を見ますと、「都市連合会」(IM[Intercity Meeting])を開かなければならないと明記されています。当時のIMは、フォーラム形式が取られていたため、ICGF[Inter-City General Forum]、すなわち「都市連合会フォーラム」と呼ばれていました。後にIGF[Intercity General Forum]

と名称が変更されましたが、いずれにしてもRIから費用が支払われる、分区単位で行う勉強と親睦を深める会合として定着していました。

しかし、経済的理由から、1969年のRI理事会でRIはその費用を支払わないことを定め、それ以降、IMを実施するか否かは、ガバナーの裁量に委ねられることになりました。

その結果どうなったかと言いますと、世界のほとんどの地区では、IMをしなくなりましたが、日本ではすべての地区で継続されている、というのが現状です。

日本ロータリーのホームページには、インターシティミーティングについて、「グループ、分区単位で、ガバナー補佐が主催して開かれることが多いようです」と記されています。「ようです」とあるように、開催方法についての決まりはありません。

当地区では、かつていち早くDLP(地区リーダーシップ・プラン)を採択し、それから必ず会員セミナーを併設して行うようにしてきました。また今年から、IM主催者が誰であれ、年度内における地区の正式行事の「主宰者」はすべてガバナーとする方針をとっています。

戦後まもない頃にすでにIMという名称の会合があったようなのですが、それはInformal Meetingの略称でした。それは小人数を単位とした「ファイアサイド・ミーティング(炉端会議)」というかたちで意義あるものとして長らく受け継がれてきましたが、今はむしろ逆に、一定のグループの複数のクラブのできるだけ大勢の参加と交流を目的としたIMに生まれ変わったのです。

これは日本のロータリーの良き伝統として今後も継続していきたいと考えています。

会長エレクト研修セミナー(PETS)報告



中川博司ガバナーエレクト事務所 次期地区幹事

ふじさわ ひでたか
藤澤 秀敬 (伊那RC)

3月23日に会長エレクト研修セミナー(PETS)が伊那市マリエール伊那にて開催されました。出席者はガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニー、次期地区研修リーダー、研修委員、次期カウンセラー、次期ガバナー補佐、RLI委員の皆様、そして各クラブ会長エレクトの皆さん55名であります。

宮坂ガバナーのご挨拶ではPETSの意義、重要性について、そして本日の研修が有意義なものとなるようにとのお話があり、次期地区研修リーダーの綿貫隆夫様よりご自身の経験から会長エレクトの心構えについて、そして本日の研修の進め方についての説明がありました。

続いて中川博司ガバナーエレクトよりRIテーマ及び地区方針について説明がなされました。ゲイリーC.K.ホアンRI次期会長のRIテーマ「ロータリーに輝きを(Light up Rotary)」とRI会長強調事項について解説され、「明日のために今こそ行動を」と第2600地区の方針及び行動目標についてお話があり、本日は各クラブの会長エレクトの皆さんと共に次期について考え研修したいと述べられました。

次期地区研修委員の堀川浩様から本日の研修の流れについて説明がなされました。A会場では「クラブのサポートと強化」について、B会場では「人道的奉仕の重点化と増加」について、C会場では「公共イメージと認知度の向上」について、ガバナー補佐と会長エレクト

トが3つの班に分かれてそれぞれ50分間、会場を移動して研修が進められました。RLI委員の皆様の的確な進行により各セッションとも熱心にかつテンポよく進められ、参加者の理解がかなり深まったと感じられました。

閉会本会議では事務連絡の後、次期地区研修委員の都筑文男様よりリソース(クラブセントラル)について詳しく解説がなされ、各クラブ会長はインターネットにより必要な情報を入手可能な事、また各クラブの状況を随時入力することが不可欠であるとの説明がなされました。宮坂ガバナーから本日の労いの言葉と次期への期待が述べられ、最後に中川ガバナーエレクトより本日指導にあたられた宮坂ガバナー始め地区研修委員の皆様、パストガバナー各位、RLI委員の皆様にお礼の言葉が述べられ、参加された皆様には「明日のために今こそ行動を」と、お礼と今後一層のご協力をとのご挨拶がなされ終了致しました。



～地区研修・協議会開催報告～ 前向きなエネルギーと行動力の中川年度を学ぶ



国際ロータリー第2600地区 2014-2015年度

地区研修・協議会実行委員長

くぼた ひでふみ
久保田 秀文 (飯田南RC)

地区研修・協議会の御礼

日時：2014年4月6日(日)10:00～16:00

会場：松本市 松本大学

ホスト：飯田南ロータリークラブ

地区協議会の名称が「地区研修・協議会」と改められた本年度。お蔭様で会員のご協力を得て、無事務めさせていただきました。

4月6日(日)松本市 松本大学様に、パストガバナー他指導者を含む55クラブから、約615名の関係者が出席され、飯田南ロータリークラブがホストを務めました。

次年度のRIテーマ『ロータリーに輝きを (Light up Rotary)』の理解と、中川博司次年度ガバナーの『地区方針及び行動目標』“明日のために 今こそ行動を”をしっかりと学び合えたことと思います。

即ち、“ロータリーとは何か?ロータリアンの誇りとは何か?”を考え、内向き志向を改め、外に向かって!奉仕の理想に向かって!実践行動がはじまるための、中川年度を学ぶ日”でありました。

次年度ガバナーは「2600地区のロータリアン全員で、歴史的成果を残す年でありたい」と訴えられました。

「現状を打破するためには、前向きなエネルギーと行動力、そして、変化を受け入れる寛容な心」が求められました。

“すべてのロータリアンが、そのための一步を踏み出そう”と呼び掛けられました。

当日の研修・協議会をホストいたしました飯田南ロータリークラブ会員は、心をこめて、設営をいたしました。いかがでしたか?

皆さんにとりまして、有意義で、楽しく、しかも満足な研修となりましたでしょうか!

研修会議の内容につきましては、次期地区幹事に委ねます。

開催にあたり、中川次年度ガバナー、次年度地区幹事及び次年度地区ガバナー事務所をはじめ、指導者の皆様、関係クラブの皆様に、格別のご指導、ご協力を頂きました。

心より感謝申し上げます。



久保田実行委員長 開会の言葉

実った次年度指導者研修会 4月6日(日)

本 会 議



宮坂ガバナー 挨拶



宮澤 飯田南RC会長 歓迎の言葉



エレクト・研修委員・リーダー・ガバナー



中川ガバナーエレクト挨拶



パストガバナー



中川エレクト・RIテーマ・地区方針



分科会 10部会を開催



分科会 熱心な質疑



Rotary Momentの発表



一呼吸・友愛の広場



おつかれ様・手に手つないで

上伊那グループ IM・会員セミナー報告



国際ロータリー第2600地区 2013-2014年度

上伊那グループガバナー補佐

ば ば ひでのり
馬場 秀則 (伊那中央 RC)

3月16日JA上伊那フラワーホールにて、宮坂ガバナー、中川エレクト、綿貫研修リーダー、尾関地区幹事をお招きして、伊那中央ロータリークラブのホストにおいて、IMが開催されました。

会員セミナーでは、「仲間を増やそう」というテーマで、各クラブの会員増強委員長さんより、会員増強の方法などが発表され、「一人入会すると、一人亡くなれてしまい純増に至らない」、「営業各地に行くたびメイクアップ出来てよい」、「奉仕の気持ちのある人がいたら入会を誘ってみる」と言うような発表がなされ、入会三年未満の新入会員が、ロータリーにどのようにして、入会したか発表して頂き、「ロータリーは年を取ってから入会するものと思っていた」、「仕事の段取りが大変」、「お金がかかる」、「皆さんと知り合いになりよい経験をした」というような意見が出され、今後のクラブ会員増強の一助に成ったのではないかと思います。

最後に綿貫研修リーダーより「魅力あるクラブを造ることが、各クラブ増強につながる」と言うような講評を頂きました。

記念講演は、NHKエグゼクティブ・プロデューサー西村与志木先生による

「スーパー大河ドラマへの道」と題して一般公開にて講演会を行いました。

プロデューサーはお金のことを心配しながら、製作していかなければならず、製作の苦労話から、裏話が聞けて大変面白く拝聴出来ました。さらに一般参加者にロータリーのPRも出来たと思います。

最大のイベントは、懇親会であります。

伊那市消防音楽隊による、吹奏楽団は素晴らしい演奏をして頂きました。

ホストクラブの伊那中央ロータリークラブは、勿論のこと、伊那西インターアクトの生徒達の協力があって、素晴らしいIMとなりました。



諏訪グループ IM・会員セミナー報告



国際ロータリー第2600地区 2013-2014年度

諏訪グループガバナー補佐

えんどう まさと
遠藤 真人 (富士見RC)

重々しく会場内に広がる宮坂宥洪ガバナーの点鐘で始まった今年のIM及び会員セミナーは3月30日(日)、茅野ローヤル会館で行われました。富士見クラブをホストクラブとして域内7クラブ参加者160名程の賑やかなIMとなりました。

会員セミナーの講師にはロータリーの友でおなじみの「バギオ基金」の前会長であり、2580地区パストガバナー、全国ガバナー会議長を務められた前川昭一様をお願い致しました。

氏は複数地区のRI会長代理として出向いておられ、ロータリーのA to Zを熟知しておられます。そこで私達はバギオ基金の「寄付申し込みDESK」を設け寄付の受け付けを致しました。お陰様で29名の会員から20万円もの浄財が集められ、バギオ基金に収納されました。

次いでIMのテーマ「環境保全・自然と共存」と題して県立富士見高等学校の生徒の皆さんに5つのプロジェクトの研究発表をして頂きました。内容は

1. ミツバチタウン化計画
2. 釜無ホテイアツモリソウについて
3. キレイな諏訪湖を取り戻すために
4. アルパカ牧場にかかる夢
5. ニホンヤマメの保護活動

いずれもすばらしく完成されたプロジェクトと明快なスピーチとで聴衆の感動を得ました。さすが全国大会で優勝の栄冠を得たチームであると心から思いました。

以上わずか21名会員の小クラブが、IM・会員セミナーを実施して、複数の「大成功だね」とお誉めの言葉を頂いて、補佐である私からも実行委員諸氏に感謝申し上げます。



3月20日～22日開催 第27回国際青少年交換白馬スキーの集い 参加報告



国際ロータリー第2600地区 2013-2014年度

青少年交換委員会 委員長

わかばやし とし き
若林 俊樹 (戸倉上山田RC)

白馬スキーの集いは、地区が愛知2760地区と長野2600地区に分割された時から続く、今年で27回を数える伝統ある多地区合同の青少年交換事業です。

ロータリー国際青少年交換学生、派遣候補生、帰国学生、そして地区役員が白馬に集いスキーを通じて親睦を深めるとともに、派遣学生修養の場ともなっています。

実行委員会の運営は白馬ロータリークラブに、三分の二が初心者の方のスキーのサポートは地元白馬高校の皆さんにお願いしています。

本年度は愛知2760地区より田中ガバナー、加藤ガバナーノミニーをはじめとする36名。山梨静岡2620地区より渡辺国際奉仕委員長ほか16名。本年度より初参加の岐阜三重2630地区からは加賀ガバナー、竹腰パストガバナーほか17名。当2600地区より宮坂ガバナー、中川ガバナーエレクトご夫妻、望月ガバナーノミニー、都筑パストガバナー RIJYEC社員ほか25名。合計で各地区役員36名、受入学生21名、派遣候補生27名、帰国学生10名に加え、サポートの白馬高校生26名、運営にあたる白馬ロータリークラブと、あわせて130名以上におよぶ大きな事業となりました。

昼間のスキー、開催日初日はあいにくの雨となりましたが、皆さん元気よく雪の中に飛び出してゆきました。二日目も吹雪、ほとんどの学生にとってはじめての体験となりました。

初日の夜は、7カ国の言葉が飛び交う学生だけの懇親会。二日目の夜は、地区ごとに候補生のオリエンテーション。来日学生や帰国学生が見守る中、独仏伊の現地語を含む英語でのプレゼン。海外生活体験者の先輩や、独仏米の来日学生たちからの助言もいただ

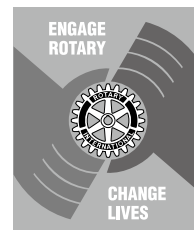
き心を新たにしたいと思います。深夜のロビーにも多くの言語や笑顔が飛び交い、若い人の感性の交流が行われました。

白馬クラブと白馬高校生のサポートもあって、最後には来日学生、派遣候補生、白馬高校生の区別、国や言葉の壁もなく、抱き合って別れを惜しむ姿は感動的でした。

実は交換学生にとってこの時期は筆舌に尽くしがたい苦勞を乗り越えた先にあった喜びの季節なのです。言語、習慣、制度、そして他人の家での生活は、体験したものには語れないようなとても大きな壁なのです。来日3～4ヶ月後まで続く、この壁を乗り越えた者同士が、過ぎ去った苦悩に満ちた日々、そして現在の喜びに満ちた日々を語る場でもあるのです。そして後輩の派遣候補生に、それを伝える場でもあります。

当地区も例外でなく、交換学生が直面する各種問題も抱えております。その原因の一つは、核家族や過度の個人主義、過保護が進む日本で暮らす学生が、ホームステイ先での暮らしを含む団体生活に適応できないことや、言語を含め自分を表現する力が不足している事が根底にあると思います。このため、今後、多人数同室での合宿を含めたオリエンテーションも拡大してゆく予定です。

来季は7名の受入学生、7名の派遣学生と新たな候補生と、更に大所帯となります。改めて、地区や受入クラブ、ホストファミリーの皆様へ感謝するとともに、周囲に感動と理解をあたえ、日常生活から国際親善や平和に資することが出来るような学生となるよう、安全安心の環境を整えて、時には厳しくも温かい心でサポートしてゆく所存です。皆様の更なるご支援をよろしくお願い致します。



Column コ・ラ・ム

GOVERNOR'S ESSAY ガバナーズ・エッセイ

日本人の宗教 (3)

宮坂 宥洪

結婚式とは「これから二人で生活を共にします」という「誓いの儀式」ですが、誰に誓っているのか、おそらくほとんどのカップルは意識していないのではないのでしょうか。

神前の場合は、どの神社（たとえホテルの中の形だけの神棚）であろうと、大国主命に誓うのです。大国主命が縁結びの神とされてきた理由（それは「国譲りの神話」に由来する）はともかく、多くの新郎新婦は式の当日までそれがどれほど重要なことであるかを考えたこともなく、式が終わっても、生涯のちぎりを誓った神の名を覚えている人はほとんどいないでしょう。

日本における結婚は、形式はどうあれ、本当に誓う相手は実はご先祖様なのです。先祖に繋がる家の一員となる、そして一家をかまえるというのが、日本人の結婚なのです。

ところが、教会で挙げる結婚式は、牧師や神父が「誓いの言葉」を読んで、それにカップルが順に「はい」と答えます。問題はその「誓い」の内容です。

キリスト教の結婚式は、結婚契約を守ることを神に誓う儀式です。「あなたは、この女性（男性）をよきにつけ悪しきにつけ、病の時も、健やかなる時も、死が二人を分かちまで、聖なる結婚により妻（夫）とするや」と新郎新婦に尋ねます。最近、この中の「死」という言葉は縁起が悪いので「命ある限り」と言い換えているようですが、意味は同じです。

死が二人を分かちまで、命ある限り、添いとげます！これを、なんとロマンチックな言葉でしようと思うようでは、キリスト教の本質を何も分かっていません。

これはロマンのかけらもない厳粛な、契約の誓いなのです。「死が二人を分かちまで」、つまり二人のうちのどちらかが死ぬまで、どんなことがあろうと、この結婚を続けますと神に誓うのです。言い換えれば、一方が死んだ時点で、この契約は終了します。その時点で両者は無関係になります。死者の魂の行方はすべて神の意志によるとされていますから、生者の関知する

ところではありません。葬儀に限らず、キリスト教の行事はすべて、ただ単にひたすら神を称えるものです。

こういう契約思想のなかでは、先祖という概念が希薄です。というより、祖先崇拝という世界各地に古くから伝わる民族宗教に共通した信仰を徹底的に否定するところから始まったのがキリスト教なのです。

教会での結婚の契約は、一方が死ねば、それで終了となります。それが「死が二人を分かちまで」の意味です。これがキリスト教による教会での結婚です。

死が二人を分かちまで、たとえ片方が半身不随になろうが、どうなろうが一緒に暮らします、と誓うのです。そこでもしこの契約を一方的に途中で解約しようものなら、違約金を払わねばなりません。それが慰謝料です。日本はキリスト教社会ではないのに、この制度を導入しています。

片方が死んだら、この契約は自動的に消滅するけれども、それに異議はありませんということを神の前で誓うのが、教会での結婚式なのです。

こういうことを知った上で、若い人たちは教会で結婚式を挙げているのかと問うのは酷なことかも知れません。たとえば教会で結婚式を挙げようが、世界中のキリスト教国では考えられないことに、それを日本人は「ご両家」、つまり家同士の結婚というのです。

日本人は結婚後、同じ姓を名乗ります。正確には「氏」。それは「家の名」です。

ところが、戦後の憲法や法律は、なんと日本には「家」が存在しないことになっています。一般の国民は憲法などには普段関知しませんが、大幅な改正が必要なのは確かです。

必要な例。日本国憲法第24条に「婚姻は、両性の合意のみによって成立し」と定められています。「両性の合意のみ」で成立する婚姻など、犬や猫と同じではありませんか。そもそも国家のあり方を規定する憲法で、なぜこんな野蛮な条項を設ける必要があったのか、まったく不明です。

国際ロータリー第2600地区 第26回インターアクト海外研修派遣報告



国際ロータリー第2600地区 2013-2014年度

インターアクト委員会 副委員長

わき た ひろ み

脇田 博美 (松本空港RC)

去る3月20日から27日、第26回IA海外研修派遣が参加インターアクト生9校13名 顧問教師2名 ロータリアン3名 計18名が参加して、オーストラリアRI第9675地区 シドニー市で、5泊8日間の行程で行われました。

海外研修派遣の目的はIAの2つの目標である「国際理解」と「社会奉仕」を、事前研修を通じて学び、実際に現地で体験することです。今回は特に、4日間のホームステイを通じて、オーストラリアの人や文化と自然にふれるなかで、各生徒のそれぞれの国際感覚の育成、人に意思を伝えることの大切さを知る事と語学のbrush up、いろいろな場面での積極性の発揮と協調性を学ぶ事などを中心としました。

研修生は、この研修に参加するための課題として、2月までに英検資格を全員が取得しました。また、年末から5回の事前研修に参加しました。事前研修は以下の内容でした。

- ・オーストラリアという国の成り立ちや文化について、それぞれ調査して発表。
- ・英語での自己紹介スピーチや各セレモニーでのスピーチの作成と練習。
- ・テーブルマナー。
- ・日本や自分の住んでいる町の紹介。
- ・交流会やレセプションでの出し物(折り紙、歌やダンス、レクリエーションゲーム)の企画と練習、および現地のレセプションでの役割分担の確認。

事前研修は生徒の自主性を尊重して進められました。顧問の池ヶ谷先生、千村先生、リチャード・イージー・イングリッシュスクールのヘザー先生、交換留学生のプレイバさんには大変お世話になりました。

3月20日午前4時50分 研修派遣団は、長野駅東口を出発して、安曇野市、松本市、茅野市、飯田市をバスで経由し、研修参加生を乗せながら中部国際空港セントレアに向かいました。中部国際空港から仁川空港で飛行機を乗換えて、3月21日午前7時10分にシドニー空港に到着しました。乗換の待ち時間も含めてまる1日の移動で、研修生たちは多少疲れた様子でしたが、これから始まる研修への期待半分、不安半分という印象でした。

シドニー訪問1日目の3月21日 高齢者施設(Allan Walker Village)を訪問しました。現地の責任者アベイルさんに施設内を歩きながら概要を説明して頂きました。明るく清潔感のある施設で、研修生は施設の広さに驚いたり、「すべては入居者の健康のために」という運営方針やその方法を真剣に聞いたりしていました。その後、入居者の方と一緒に七夕人形(松本の伝統的な紙人形)を作成しプレゼントしました。生徒たちは入居者の方に一生懸命作り方を説明しながら、一緒に楽しんでいました。七夕人形はとても気に入って頂けたようでした。交流の時間は、あっという間に過ぎてしまいました。お別れには、日本で練習した「ワルチングマチルダ(オーストラリアの国民的な歌)」を入居者の皆さんと一緒に大合唱しました。特にポールさん(入居者の方)の美声には驚かされました。

3月22日 現地でのボランティア活動(ビーチクリーンアップ)のため、市街地の北にあるマンリーのビーチでネイチャーガイドのブルースさんと合流し、シドニー・

ハーバー国立公園を横切るように歩きビーチクリーンアップをしました。シドニーの植物や動物、自然環境についてのお話を聞きました。参加生は、晴天のなか、3時間におよぶ活動でしたが、マンリーの美しい自然とそれを守る事の重要さを真剣に学んでいました。長野県には海がないので、研修生たちは海的美しさに感動しているようでした。

この日の午後にホームステイ先のホストファミリーと顔合わせをして、各自のホストファミリーに引取られていきました。そして、翌日(3月23日)はホストファミリーと過ごしました。

3月24日 学校訪問と交流会のためTHE FOREST HIGH SCHOOLを訪問。

歓迎セレモニーでは、教頭先生と生徒代表から歓迎の言葉を頂きました。それに続いて団長の池ヶ谷先生が挨拶、研修生の鳥羽さんがスピーチをしました。それから、ホスト校生によるギター演奏、RI第2600地区研修生は合唱を披露しました。ホスト校の生徒が緊張しているのを見て、研修生たちは、「緊張しているのは自分だけじゃないんだ」と少し安心しているようでした。

学校の施設案内では、ホスト校の生徒と2、3人の組になって、学校の色々な教室や施設を歩いて案内してもらいました。一緒に授業にも参加しました。授業の内容はわからなくても、なにかしら得るものはあった様でした。その後みんなでバスケットボールをしました。

お昼を食べる頃にはお互いに打解けていて、研修生たちは自分の語学力をフル活用して会話していました。交流会の最後は、研修生主導で、「Let's dance!」といってホスト校の学生と一緒にAKB48を踊ってお別れしました。研修生は日本以外に友達を持つ事の楽しさを知ったようでした。

この日の夕方は、ホームステイファミリーを迎えてのフェアウェルパーティでした。研修生は各ホストファミリーとテーブルを囲んで楽しく過ごしていました。研修生の北村さんがホストファミリーへのお礼のスピーチをした後で、研修生みんなで感謝の気持ちを込めて、「花は咲く」を歌いました。これは、とても気持ちのこもった歌で、ホストファミリーを含め、会場の全員がとても感動しました。

3月25日 シドニーロータリークラブの例会訪問。

この日はRI第2600地区IA生として、シドニーロータリークラブの例会に参加しました。例会の前にシドニークラブパスト会長のローズリンさんと打合せしました。ローズリンさんは日本語がとても上手でした。じつは、以前、東京大森クラブにYouth exchange programの交換留学生として留学していたそうです。研修生はローズリンさんを尊敬の眼差しでみているようでした。

ローズリンさんのご好意で、せっかく日本から来たのだからと、通常例会の貴重な時間をさいて、ガバナー親書の受け渡しと2人の研修生のスピーチの時間を



作ってくれました。

例会では、研修生たちは2人ずつにわかれて、シドニークラブのロータリアンと一緒にテーブルにつきました。後で、研修生は「テーブルマナーの勉強が役に立ちました」と言っていました。

例会が始まると、ガバナーへの親書の受け渡しとスピーチのために、研修生の星野さん、浅野さん、派遣委員の柳澤委員、前田委員が演台の方に呼ばれました。前田委員がGarry A. Browneガバナーに親書を渡した後に、星野さんが研修の目的と挨拶のスピーチを、浅野さんが例会に迎えて頂いた事への感謝のスピーチをしました。

会場のロータリアンは2人のスピーチに真剣に耳を傾け、スピーチがおわった後には大きな拍手で歓迎してくれました。その後研修生たちは食事をしながら、各テーブルで現地のロータリアンの方と身振り手振りを交えて、一生懸命会話していました。ものおじすることなく、ロータリアンとテーブルを囲んだり、堂々とスピーチをする研修生の姿に、ほんの数日の間にここまで成長するものかと、とても感心させられました。

その後参加研修生のインターアクト提唱クラブのバナーを渡して、会場を後にしました。

3月26日 帰国の日です。朝から1日かけて仁川空港を経由して中部国際空港セントレアまで飛行機で行き、そこからバスに乗って長野県に、3月27日未明に皆無事に帰ってきました。

以上が第26回海外研修派遣の主なプログラムで

す。最初は頼りなかった研修生たちですが、日を追うごとに積極的になり、また、必要なときにはお互いに協力し、周りの人を気遣うように成長していきました。

今回同行して研修生の目覚ましい成長など多くの事を感じました。また、ロータリーという組織について以下のような事を感じました。

RI第2600地区のガバナーが、RI第9675地区のガバナーとシドニークラブの会長へガバナー親書を送ることで、RI第2600地区インターアクト生のシドニークラブへの例会訪問が実現しました。そして、現地では大変歓迎されました。これは、ロータリーと言う組織が国際組織であるだけでなく、ロータリーは共通の価値観をもっている組織だからなのだと、とても深く感じました。現地のロータリアンの方の「次世代の育成は最も重要な事項の一つである」と言う言葉に大変共感を覚えました。

RI第9675地区 Garry A. Browneガバナーはじめ、例会訪問を快く受け入れてくださったシドニークラブの皆様、当地区 宮坂宥洪ガバナー、事前研修からご協力頂きました顧問の先生方、提唱クラブや地区委員の皆様、今回の研修にご尽力頂いたすべての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

最後になりましたが、今年度の海外研修派遣に際しましては、当地区ロータリークラブのすべての会員の皆様のご理解と、大きなご支援とご協力を賜りましたことを心から感謝申し上げ報告とさせていただきます。ありがとうございました。



第26回インターアクト海外研修派遣 報告会・解団式 開催報告



国際ロータリー第2600地区 2013-2014年度

地区インターアクト委員会 副委員長

さとう ただゆき
佐藤 忠幸 (長野東RC)

3月30日(日)松本市中央公民館(Mウイング)において、『国際ロータリー第2600地区 第26回インターアクト海外研修』の報告会と解団式が 宮坂 有洪 ガバナー、柳澤 光臣 青少年奉仕委員会 委員長、市川 誠 地区インターアクト委員会 委員長 はじめ 委員、各校インターアクトクラブの顧問の先生方の出席の中執り行われました。

今回の海外研修派遣先は オーストラリアのシドニーで、3月20日の早朝に日本を出発し、同27日早朝に長野に帰ってくるという現地5泊の日程でした。この5泊の内、生徒の皆さんは現地的一般家庭に『3泊のホームステイ』をするという企画で実施されました。

今回はこの他に『高齢者福祉施設訪問と交流』、『ビーチクリーンアップ活動』そして『学校訪問と交流』、『現地シドニーロータリークラブ訪問・例会出席』と短期間の中で密度の濃い様々な交流・研修が行われました。

さて、その研修の報告会と解団式は9時30分より開会し、はじめに 宮坂ガバナー様から「シドニーロータリークラブ出身のガバナー Garry A. Browneさんから、今回の様々な交流や訪問を今回だけで終わらせずに継続して欲しい」とのご自身に届いた手紙をご紹介します。又「今回の研修の成果など報告を楽しみに出席した」とご挨拶を頂戴しました。

柳澤青少年奉仕委員長、市川インターアクト委員長、そして副団長の千村美恵子先生(文化学園長野高等学校IAC顧問)、参加生徒副リーダーの福澤美緒さん(文化学園長野高等学校IAC)とご挨拶をいただき、その後 報告会となりました。海外研修派遣の事前研修で英語の講師をしていたいたヘザー先生もご一家でお見えになり、報告会・解団式を見学されていたいきました。

報告会ではまず、参加生徒の皆さん(13名)の研修報告・感想・今後の展開など短時間でしたが全員の皆さんから報告をしていた、次に団長というお立場で大変ご苦労いただいた、東海大学附属第三高等学校IAC顧問の池ヶ谷一夫先生には、地区IA委員会副委員長の脇田博美派遣委員長(松本空港RC)の撮影された記録写真をプロジェクターで投影して説明を加えながら報告していただきました。

参加された皆さんも、つい数日前の事なのですが、それぞれに懐かしそうに見入っていました。池ヶ谷団長に続いて千村副団長からは「昨年12月に始まった事前研修の時から、海外研修から帰国して現在に至るまでの間に、生徒の皆さんの行動と取り組む姿勢に大きな変化が見られた事は、大きな成果・収穫だと思う」とご報告頂きました。

地区IA委員以外のロータリアンから地区派遣委員としてご参加いただきました松本空港RCの前田祐一幹事も報告していただきました。前田委員からは「出発前は緊張

もあり生徒同士中々打ち解けていない様にも見受けられたが、帰る頃には英語の会話や行動が皆さん積極的に、今回の研修でホームステイ受入れ先のご家庭に対する感謝の気持ち・国際交流・国際理解など様々な勉強ができて皆さんが成長したのではないかと実感した。又、自身の大役であった現地のガバナーさんとシドニーロータリークラブ会長さんへ宮坂ガバナーの親書を無事お渡しできたことにはホッと、先方の対応に感動した」とも報告されました。

そんな雰囲気の中、地区委員などから質問も出てとても有意義な報告会になりました。

休憩を挟み解団式が執り行われました。海外研修派遣委員でもありました柳澤青少年奉仕委員長からは「皆さんの成長ぶりが日々感じられとても実りある研修であったが、これを今後の皆さんの家庭・学校や社会においてその成果を活かして欲しい、そこに今回のこの研修の意義があるのだ」との講評と生徒の皆さんへの期待の言葉を頂戴しました。

これに対し参加生徒リーダーの星野楓さん(東海大学附属第三高等学校IAC)からは「ロータリーの皆さんからは多大なご支援を頂き貴重な体験をさせていただきました。この良き体験をIACの奉仕活動・国際理解・国際交流活動にそしてそれぞれ個人の生活の中に活かしていきたい」というお礼の言葉と力強い決意の言葉をお聞きすることができました。

その後、池ヶ谷団長のお礼の言葉と団旗の返納が行われ、市川地区インターアクト委員会委員長による研修派遣団解散の言葉で解団式を閉じました。

事前研修を含めると4ヶ月あまりの今年度の第26回インターアクト海外研修派遣の事業が無事故で無事全て終了することができました事は、第2600地区全ロータリアンの皆様のご理解と手厚いご支援を頂戴したからと改めて御礼を申し上げ、報告とさせていただきます。ありがとうございました。



ロータリー財団(新)地区補助金活動の紹介

ロータリー財団委員会 Secretary 小口 泰史

今月は4クラブのプロジェクト活動報告を掲載いたします。

■松本東ロータリークラブ

《留学生による日本語スピーチコンテストの開催》

昨年の11月15日に松本東RC会員40名が企画、会場運営、進行等を行った「留学生日本語スピーチコンテスト」が信州大学や松本大学に通う6ヶ国10名の留学生の参加によりホテルブエナビスタにて開催された。

スピーチコンテストは国際間の理解や平和を推進することを目的として開催され、当日参加した留学生及び留学生の友人等が自国の再認識と日本に対する認識を深める事ができ、将来日本との架け橋として活躍することが期待された。

当日の留学生の熱弁ぶりが市民タイムスに掲載されました。

■軽井沢ロータリークラブ

《地元スポーツ少年団の育成プロジェクト》

入会する団員が増加してユニホームが不足しているとの要望を受けて、予選を勝ち抜き全国大会に出場した軽井沢カーリング少年団、軽井沢FCスポーツ少年団にユニホームを贈呈した。

両クラブとも好成績を上げることができました。

ユニホーム贈呈式、全国大会の報告等が信濃毎日新聞、軽井沢新聞に掲載されました。

日本サッカー協会との事前打ち合わせにて、ロータリーマークを背負ってのユニホーム着用の可・不可に関しての確認に手間取りましたので、今後はこのような点に関しても各クラブとも留意してください。

■長野南ロータリークラブ

《学童の交通安全のための支援事業》

昨年の9月より長野市篠ノ井通明小学校通学路付近に於いて、通明小学校PTA保護者よりの要望を受け児童、生徒、園児を交通事故より守るため「とびだし注意」の看板を作成して、10名のクラブ会員が学校長、PTA、地区組合長と連携して設置場所を決定し、看板の設置作業を行い交通安全意識の向上を図っております。

現在も設置作業が進行中です。(中間報告書としての補助金報告書が提出されました)

■松本ロータリークラブ

《福島県立原町高等学校と松商学園高等学校との交流・継続的な支援活動》

今年の3月8日(土)に松商学園高校に於いて、東日本大震災以来交流を続けている原町高等学校の放送部の生徒5名を招き両校がそれぞれに製作した東日本大震災や東京電力福島第一原発事故をテーマとした作品を松商学園高校生徒並びに一般市民約100名が参加する中、上映し、日本チェルノブイリ連帯基金の方にコーディネーターお願いして、パネルディスカッションを行った。

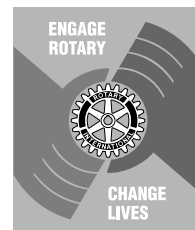
当日の発言内容の一部を記載します。

「現実を知らない人に伝えることがやるべきことだと思った」

「関心を持ってもらっていると知ってうれしかった」

「地元でも少しずつ風化が始まっている。だが忘れてはいけないことだし、考えていかなければいけない」

両校とも今後も交流を続けていく意向です。



New Generations ニュース))) 【青少年奉仕委員会】



インターアクトクラブ活動報告 長野女子高等学校 インターアクトクラブ

校 名 長野女子高等学校
ク ラ ブ 名 長野女子高等学校インターアクトクラブ
提唱クラブ名 長野西ロータリークラブ

長野女子高校インターアクトクラブでは、株式会社ユニクロ主催「服のチカラプロジェクト」に参加しています。これは、『着なくなった子ども服を回収し、難民の方々など世界中で服を本当に必要としている人々に届ける』というプロジェクトです。地域の社会福祉施設や長野西ロータリークラブに紹介していただいた市内の保育園への依頼、文化祭での展示発表で、



ふれあいパーティー

回収を呼びかけ、全体で1909枚集めることができました。その他の活動としては、今年度より、語学同好会や茶道同好会と連携して、留学生との交流会「ふれあいパーティー」を開催したり、「インターアクト便り」を発行しています。また、海外研修に向けて英検を受験するなど、積極的に活動しています。今後はさらに活動の幅を広げて取り組んでいきたいと思っています。



ユニクロ出前講座



活動報告

長野ロータリーアクトクラブ 会長 成田 佳織
提唱ロータリークラブ 長野ロータリークラブ

私たち長野ロータリーアクトクラブは、現在男性6名女性2名の計8名で活動しています。次々年度に地区ホスト年度を控え、今年度はクラブの土台の立て直しに尽力しました。ロータリアンやOGの方にご支援をいただき、基本にかえて、児童養護施設の子供たちとの交流、招待行事など、ひとつひとつの行事を丁寧に行ってまいりました。

今年度の招待行事は、ほぼ全員が初体験だったことから、最初は自分たちが楽しめることから始めようということで、フジテレビ系列の「逃走中!」という番組をアレンジし、長野ロータリーアクトクラブ ver.を開催しました。

予期せぬハプニングも多々起こりましたが、一つのことを協力して成し遂げることができ、企画・実行力とともに、クラブ内の絆も深まったと思います。

アクトの日には、長野市の児童養護施設、恵愛学園の子どもたちと、レクリエーション・バーベキューを行いました。事前準備として、恵愛学園指導員の方を講師としてお招きし、子どもたちとの接し方をご指導いただいて交流に備えました。レクリエーションの後に行ったバーベキューでは、食事を作る楽しさや、みんなで作って食べる食事のおいしさを知ってもらいたいと思い、野菜を切る場所から一緒に行いました。

残念ながら当日は雨が降ってしまいましたが、雨の中でも元気よく遊ぶ子どもたちに、こちらのほうが元気をもらいました。

来年は今までは趣向を変え、子どもたちに夢を持ってもらえるような行事を予定しています。

現在のメンバーは90%が企業派遣です。きっかけは企業派遣でしたが、ひとつひとつの行事を経験し、ロータリーアクトという挑戦の場を知り、活動にやりがいや楽しさを見出しています。

次年度の地区ノミニ年度では、外に目を向け、アクトという絶好の機会を生かして、地区内、地区外、さらには国外と、さまざまな人と交流ができればと思っています。

これから、みなさんとお会いする機会があるかと思っています。その際は、ぜひお一人お一人とお話を聞かせていただければと思います。なにとぞ、よろしくお願いいたします。





ハイトよねやま 169

1 寄付金速報 — 2013-14 年度もあと3カ月 —

3月までの寄付金は前年同期と比べ1.9%増、約2,100万円の増加です。普通寄付金が0.02%増、特別寄付金が3.0%増となりました。前年度比マイナスが続いていた普通寄付金がほぼ例年並にまで回復し、特別寄付金も、7月からの累計額では直近5年間での最高額を維持し続けています。今後、残り3カ月の主な寄付金収入は特別寄付金となります。クラブ創立記念寄付も例年この時期に集中します。引き続き、皆さまからのご協力をよろしくお願い申し上げます。

2 各地区で新奨学生のオリエンテーションがスタート

2014学年度の奨学生は724人となりました。国・地域別では中国が40.6%、次いで韓国が15.8%、ベトナム9.8%、台湾5.5%の順となっています。中国・韓国籍の割合が2年連続で減少しており、両国の来日留学生数そのものが減少していることでもあります。地区選考委員会が国・地域の偏りに配慮して選考していることが伺えます。プログラム別では、今年度初めて学部課程が261人と最も多くなり、次いで修士課程が257人、博士課程が178人、そのほか、地区奨励奨学生(12人)やクラブ支援奨学生(10人)などとなっています。

4月~5月中旬にかけて、各地区でオリエンテーションが開催されます。米山奨学生としての義務やこの事業の意義を理解してもらい、確約書に署名をした後、正式に米山奨学生となります。また、オリエンテーションでは学友会メンバーも受付や学友会の説明に活躍しています。どうぞ温かくお迎えくださいますようお願いいたします。

3 タイ米山学友会の総会・活動報告

3月23日、タイ米山学友会の年次総会がバンコク市内で開かれ、学友約30人が参加しました。創立して3年目を迎える今回は役員の改選が行われ、第2代会長にはプリチャー・カリンさん(2009-10/東京日本橋RC)、副会長にワラウト・ブンロッドさん(1995-97/福岡東南RC)らが選ばれ、役員の顔ぶれが一新しました。

タイでは昨秋から政局混乱がつづいており、3カ月に1度の理事会も思うように開催できない状況でしたが、今後の活動としてタイの大学生2人(タマサート大学・泰日工業大学)に各人10,000バーツの奨学金を支給することを決定し、後日、学友会役員が直接奨学生に手渡しました。プリチャー会長は「先輩方が築いてきた学友会を引き継ぎ、今後もより活発な活動を行って、日本のみなさんに良い報告ができるようベストを尽くしたい」と、抱負を語りました。



左からコンキットさん、ウイチット前会長、泰日工業大学の奨学生

4 さいたま大空ロータリークラブ加盟認証状伝達式

昨年11月4日に創立した「さいたま大空ロータリークラブ」(第2770地区)の国際ロータリー加盟認証状伝達式が3月23日、さいたま市内で開催されました。このクラブは、24人の創立会員全員が財団学友と米山学友で構成されており、会員の出身国は6カ国、平均年齢は35歳という国際色豊かな新世代のクラブです。初代会長



は米山学友の李成哲さん(2005-06/川口モーニングRC)、幹事は米山学友の馬培金さん(1998-99/さいたま中央RC)です。

式典には約280人が参加し、恵川一成特別代表(大宮シティRC)、地区クラブ拡大特別委員長・田村亮夫パストガバナーの挨拶のあと、李会長からロータリー財団とロータリー米山記念奨学会へそれぞれ寄付金が贈呈されました。その後、渡邊和良ガバナーから李会長へ加盟認証状が手渡され、国際ロータリー理事の北清治氏らから祝辞が述べられました。記念祝賀会では、会員

が優美な民族舞踊を披露し、自国や派遣先国の民族衣装を身にまとい現地語で挨拶をするなど、クラブの特色を生かした演出で参加者を楽しませました。最後は全員で「手に手つないで」を合唱し幕を閉じました。李会長は「国や民族、宗教、言葉などが違って、私たちは皆、ロータリーとの出会いによって、人生に大きな影響を受けた。これからもお互いを尊重し、共に奉仕活動を行う中で友情を育み、その素晴らしさを世界の平和のために発信していきたい」と、決意を述べました。

5 学友から広がる支援の輪 — 第2790地区 —

米山学友、サジーワニ・ディサーナーヤカさん(2011-13/松戸西RC)は、母国スリランカの貧しい子どもたちへの教育支援活動を、夫メルビン氏とともにを行っています。自身も里子として進学し留学を果たしたサジーワニさんは、より多くの子どもへ教育の機会を与えたいと願い、2007年、元公立小学校校長の鈴木康夫氏の資金協力のもとに「コスモス奨学金」を設立。現在では約130人の里子を支援しています。サジーワニさんが米山奨学生となり、地区内クラブへ卓話をするなかで、支援の輪も少しずつ広がっていると言います。そのうちの一人、同地区の元米山奨学委員長・四之宮由己氏や中村俊人氏らロータリアン約15人が今年2月末、ガンパハ地域の寺院で行われた奨学金授与式に参加し、里子たちの家庭を訪問視察しました。中村氏は今回の授与式参加について、「私の里子が空港まで迎えに来てくれて感激した。当日は、大臣や市長も出席する盛大な式典で、この奨学金について真剣な表情で聞き入る子どもたちの姿に心が引き締まる思いがした。里子の家庭訪問では、食事も満足に取れず電気もない中、夢をもって勉強する子どもたちの意欲に感銘を受けた」と、報告してくださいました。サジーワニさんも「スリランカの教育現場を実際に見ていただけたことが本当に嬉しい。米山奨学期間は終わりましたが、ロータリアンとのつながりが、今の私を支えています」と、感謝を表しました。



中村氏(左)とサジーワニさん(右)



学用品授与のようす

公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15
黒龍芝公園ビル3F

Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281
E-mail : highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL : <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>

米山、財団寄付・新会員紹介

ロータリー財団・米山記念奨学金への寄付 ご厚意に深く感謝申し上げます。

■ MPHF 4回
(マルチプル・ボール・ハリス・フェロー)



佐久コスモスRC
たかはし たけひこ
高橋 武彦

■ メジャードナーレベル2
(大口寄付者 累計36,185,933ドル)



東御RC
たつかわ よしろう
達川 吉郎

■ MPHF 1回
(マルチプル・ボール・ハリス・フェロー)



上田RC
いちの せ しょういち
一之瀬 祥一

■ 米山功労法人
(株)イデタ製作所



上田RC
いで た ゆきのり
出田 行徳

■ MPHF 2回
(マルチプル・ボール・ハリス・フェロー)



上田RC
きたむら しゅういち
北村 修一

■ 米山功労者 4回



上田RC
こ やま ひでのり
小山 秀典

■ 米山功労者 5回



上田RC
なかむら よしゆき
中村 義介

■ MPHF 1回
(マルチプル・ボール・ハリス・フェロー)



上田東RC
みやもと しげゆき
宮本 茂幸

■ MPHF 2回
(マルチプル・ボール・ハリス・フェロー)



須坂RC
たけまえ としかず
竹前 利一

■ 米山功労者 2回



須坂RC
の だいら しずこ
野平 静子

■ MPHF 1回
(マルチプル・ボール・ハリス・フェロー)



須坂RC
や が さき しげかず
矢ヶ崎 茂和

■ 米山功労者 1回



長野東RC
きた の けいぞう
北野 敬造

■ PHF
(ボール・ハリス・フェロー)



長野東RC
ち の たかふみ
千野 貴文

■ 米山功労者 1回



長野東RC
つかだ てつろう
塚田 哲郎

■ 米山功労者 5回



松本城RC
ふじた ひろこ
藤田 ひろ子

■ 米山功労者 6回



松本南RC
あかた まさなが
縣 正長

■ PHF
(ボール・ハリス・フェロー)
■ 米山功労者



松本南RC
かす が たかすけ
春日 孝介

■ PHF
(ボール・ハリス・フェロー)



松本南RC
く ねした ひとし
久根下 斉

■ メジャードナーレベル1
(大口寄付者 累計10,000ドル)



松本南RC
こいけ ひろし
古池 汎

■ メジャードナーレベル1
(大口寄付者 累計22,000ドル)
■ 米山功労者 19回



松本南RC
なかじま きよたか
中島 清好

■ MPHF 3回
(マルチプル・ボール・ハリス・フェロー)
■ 米山功労者 9回



松本南RC
なかむら みちのり
中村 道紀

■ 米山功労者 5回



松本南RC
もたい とくみち
甕 奉邦

■ メジャードナーレベル1
(大口寄付者 累計13,000ドル)
■ 米山功労者 15回

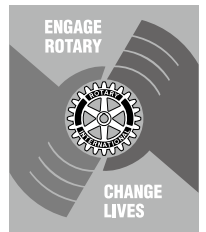


松本南RC
や が さき けいいちろう
矢ヶ崎 啓一郎

■ MPHF 2回
(マルチプル・ボール・ハリス・フェロー)



長野RC
おさだ やすみ
長田 安水



ロータリー財団・米山記念奨学金への寄付

ご厚意に深く感謝申し上げます。

■ PHF
(ポール・ハリス・フェロー)



辰野RC
かわて きん や
河手 欣哉

■ PHF
(ポール・ハリス・フェロー)



辰野RC
くわざわ まさ こ
桑澤 正子

■ 米山功労者 3 回



飯田RC
おちあい てる お
落合 照男

■ 米山功労者 2 回



飯田RC
お ば た ま さ と
小畑 正人

■ 米山功労者 1 回



飯田RC
すのはら あつ し
春原 農



新入会員のご紹介

よろしくお願ひします。



軽井沢RC
いちかわ やす お
市川 保雄



佐久コスモスRC
かわむら 川村 ひとみ



上田東RC
ふかざわ ゆたか
深澤 豊



長野東RC
か とう ひでとし
加藤 秀俊



長野東RC
つつみ みつひろ
堤 満弘



長野北RC
きのした しげ お
木下 繁夫

訃報

飯田東ロータリークラブ

ふくざわ しげお
福澤 茂雄

青果物販売
享年六十九歳

平成二十六年三月四日
ご逝去されました

■月信表紙「鶴峰公園」
(岡谷市近代化産業遺産)

初代片倉兼太郎は製糸工場で働く低年齢の従業員への教育が必要と感じ、大正6年ここに私立片倉尋常小学校を開校した。昭和4年には二代兼太郎が初代兼太郎の銅像を建設し公園化され、昭和10年に旧川岸村に寄贈された。ツツジが植えられさらに整備され、現在では、中部日本有数のツツジの名所として知られている。



岡谷市近代化産業遺産

1

鶴峰公園

～片倉尋常小学校から
中部日本一の
つつじの名所へ～

◆事業は人である
初代片倉兼太郎は学校教育を受けていない従業員が多いことを憂いて、大正6年ここに私立片倉尋常小学校を建設し、教育を受けさせた。その後も地域の教育の拠点となった。昭和初期には裁縫・家事・修身・国語が必修科目。編物・刺繍・生花・手芸などが随意科目であった。

◆中部日本一のつつじの名所
昭和10年、約10,000㎡に及びこの一帯が川岸村に寄贈され、公園として整備された。現在は約30種、3万株のつつじが咲き誇り、訪れた人々の目を楽しませている。

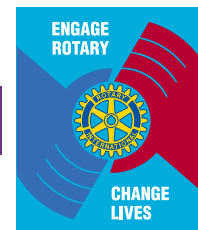
◆初代片倉兼太郎翁の銅像
個人の徳を称えられ昭和4年に建立されたが、戦争中の金属供出で台座だけになっていた。平成15年多くの有志の賛同によって再建された。



○岡谷市

岡谷市内にはこのような看板が立てられています

製糸のまちを歩こう



() は女性会員

文庫通信

319号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万3千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

最近の資料から

戦国を生き抜いた知恵

細川護照 2013 7p (D.2650地区大会記念誌)

はやぶさプロジェクトの成果・教訓

川口淳一郎 2013 4p (D.2820地区大会記録)

日本人の持つべき国家観について

渡部昇一 2013 11p (D.2520地区大会記録誌)

世界の人々のために

緒方貞子 2013 5p (第11回日韓親善会議報告書)

これからの両国のきずな

山東昭子 2013 5p (第11回日韓親善会議報告書)

軍艦「筑波」ー偉大なる航海(上)(下)

岡村 健 2013 23p (福岡南RC月報)

『がんばらない』けど『あきらめない』

鎌田 実 [2013] 1p (D.2840地区大会報告書)

これからの生き方

山田法胤 2013 2p (D.2700地区大会の記録)

人が動き街が動くー私のリーダーシップ論

セーラ・マリ・カミングス [2013] 21p (D.2800地区大会記念誌)

平和と命

深川純一 2013 20p (第35回青少年指導者育成セミナー報告書)

掃除実践60年の『人生と経営の哲学』

鍵山秀三郎 2014 10p (D.2710地区大会特集号)

[上記申込先: ロータリー文庫]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階
TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

～ガバナー事務所より～

■地区ホームページについて

☆2600地区のホームページは地区クラブの皆様に役立てていただけるよう、随時更新をしております。是非閲覧いただきご利用ください。

お気づきの点等ございましたら、ガバナー事務所までお知らせください。

URL <http://www.rid2600jp.com>

■ガバナー月信6月号発行日変更について

☆毎月1日に発行しておりますガバナー月信ですが、年度末に向けて開催が増える地区事業の報告をより丁寧に掲載する為に、6月号の発行日を15日に、各クラブ到着を16日頃に変更させていただきます。ご了承ください。

グループ	クラブ名	3月出席率 (%)	2013 年	2014 年	増減
			7/1会員数	3月末会員数	
東信第一	千 曲 川	94.34	21 (1)	21 (1)	0 (0)
	軽 井 沢	72.06	35 (1)	39 (1)	4 (0)
	小 諸 諸	87.26	34 (4)	36 (4)	2 (0)
	小 諸 浅 間	83.97	24 (0)	24 (0)	0 (0)
	南 佐 久	92.10	19 (0)	19 (0)	0 (0)
	佐 久	94.20	38 (1)	34 (1)	-4 (0)
	佐久コスモス	74.50	52 (8)	54 (8)	2 (0)
	蓼 科	75.00	13 (0)	14 (0)	1 (0)
東信第二	8 クラ ブ	84.18	236 (15)	241 (15)	5 (0)
	丸 子	82.00	27 (4)	29 (5)	2 (1)
	東 御	88.10	24 (7)	25 (7)	1 (0)
	上 田	92.11	57 (0)	58 (0)	1 (0)
	上 田 東	90.11	61 (3)	62 (3)	1 (0)
	上 田 西	86.88	48 (0)	47 (0)	-1 (0)
	上田六文銭	87.30	28 (2)	26 (2)	-2 (0)
	6 クラ ブ	87.75	245 (16)	247 (17)	2 (1)
北信第一	更 埴	82.29	28 (0)	29 (0)	1 (0)
	長 野	90.91	107 (2)	107 (2)	0 (0)
	長 野 南	84.57	32 (2)	37 (2)	5 (0)
	長 野 西	90.27	54 (0)	54 (0)	0 (0)
	須 坂	90.43	31 (3)	33 (3)	2 (0)
	須 坂 五 岳	89.06	21 (0)	21 (0)	0 (0)
	戸倉上山田	73.73	22 (0)	21 (0)	-1 (0)
	7 クラ ブ	85.89	295 (7)	302 (7)	7 (0)
北信第二	みゆき野飯山	100.00	10 (0)	11 (1)	1 (1)
	長 野 東	67.48	58 (0)	62 (0)	4 (0)
	長 野 北 東	90.00	49 (3)	51 (3)	2 (0)
	長 野 北	86.83	58 (0)	61 (0)	3 (0)
	中 野	89.86	18 (1)	19 (1)	1 (0)
	5 クラ ブ	86.83	193 (4)	204 (5)	11 (1)
	あづみ野	92.36	39 (3)	40 (3)	1 (0)
	白 馬	86.50	17 (1)	17 (1)	0 (0)
中信第一	松 本	76.10	46 (1)	49 (1)	3 (0)
	松 本 東	94.59	36 (1)	38 (1)	2 (0)
	松 本 城	80.98	21 (2)	22 (2)	1 (0)
	大 町	96.49	18 (0)	19 (0)	1 (0)
	6 クラ ブ	87.84	177 (8)	185 (8)	8 (0)
	木 曾	80.21	22 (2)	21 (2)	-1 (0)
	松 本 空 港	92.77	59 (4)	58 (4)	-1 (0)
	松 本 南	94.72	50 (1)	51 (1)	1 (0)
中信第二	松 本 西 南	91.24	38 (1)	37 (1)	-1 (0)
	塩 尻	93.33	23 (1)	21 (1)	-2 (0)
	塩 尻 北	100.00	7 (1)	7 (1)	0 (0)
	6 クラ ブ	92.05	199 (10)	195 (10)	-4 (0)
	茅 野	83.00	53 (0)	52 (0)	-1 (0)
	富 士 見	71.42	20 (1)	21 (2)	1 (1)
	岡 谷	87.33	45 (2)	44 (2)	-1 (0)
	岡谷エコー	99.99	43 (0)	47 (0)	4 (0)
諏訪	諏 訪	87.74	42 (0)	43 (0)	1 (0)
	諏 訪 湖	80.00	33 (1)	37 (2)	4 (1)
	諏 訪 大 社	74.00	38 (0)	37 (0)	-1 (0)
	7 クラ ブ	83.35	274 (4)	281 (6)	7 (2)
	伊 那	96.00	55 (1)	58 (2)	3 (1)
	伊 那 中 央	83.87	31 (1)	35 (1)	4 (0)
	駒 ケ 根	78.29	43 (1)	41 (1)	-2 (0)
	箕 輪	75.95	15 (1)	19 (1)	4 (0)
上伊那	辰 野	80.93	28 (1)	28 (1)	0 (0)
	5 クラ ブ	83.01	172 (5)	181 (6)	9 (1)
	飯 田	93.50	35 (0)	36 (0)	1 (0)
	飯 田 東	100.00	22 (3)	19 (3)	-3 (0)
	飯 田 南	98.20	68 (0)	70 (0)	2 (0)
	松 川	96.65	17 (0)	17 (0)	0 (0)
	天 竜 川	96.00	32 (2)	32 (2)	0 (0)
	5 クラ ブ	96.87	174 (5)	174 (5)	0 (0)
計	55 クラ ブ	87.53	1965 (74)	2010 (79)	45 (5)